

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 産業技術学部	3
2. 保健科学部	5
3. 技術科学研究科	7

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
産業技術学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
保健科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
技術科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 産業技術学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 研究の活性化等を図るため、平成 29 年 7 月に、筑波技術大学天久保キャンパスに総合研究棟を建設し、新たに確保した研究スペース（10 部屋（436 m²））は、学長裁量スペースとして、学内公募により、部局を越えて編成した研究ユニット等、重点研究プロジェクトに対し配分した。これにより、聴覚・視覚に障害を有する人たちがスポーツ観戦をリアルに楽しむための情報保障を提供する研究（筑波技術大学 ISee プロジェクト）や、聴覚・視覚障害者を対象とした水族館・博物館・美術館の情報アクセシビリティ研究等の重点研究を推進し、その研究成果を発信した。
- 「学長裁量経費」により、教育研究活動の積極的な取組を推進する「学長のリーダーシップによる教育研究等高度化推進事業」を実施した。筑波技術大学が重点的に取り組むべき教育研究課題について公募・選考し、平成 28 年度～令和元年度までの 4 年間で合計 65,690 千円の予算を措置した。本事業では、聴覚障害学生の教育手法（授業提示システムの開発等）や情報保障等（災害時の情報伝達方法、短距離走のスタート合図システム、環境音認知等）、筑波技術大学独自の研究を推進したほか、令和元年度からは部局を越えた全学的な研究の活性化を図り、その研究成果は、筑波技術大学テクノレポートへの報告等を通じ広く共有した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 保健科学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 視覚障害者のための画像認識を用いた「商品認識システム（音声読み上げスキャナ）」を民間企業と共同で開発し、コンビニエンスストアで実証実験を行った。
- 音声インタフェースの高機能化に即した視覚障害者向けプログラミング教育の研究を実施している。スマートスピーカーなど音声インタフェース搭載デバイスを用い、視覚障害者でも開発ができるプログラミング環境の構築を行っており、筑波技術大学学生が Alexa スキルアワード 2019 ハッカソン東京 vol.2 で好成績を収めるなど、視覚障害学生がプログラミングにおいて活躍の場を広げられることを実証。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

優れた研究業績を増やしていく必要があるものの、学術的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

3. 技術科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 8)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 筑波技術大学の障害者雇用率は令和元年6月1日現在で16.1%と法定雇用率(2.5%)の約6.5倍となっており、平成28年度～令和元年度において、国立大学法人等の中で障害者雇用率第1位を維持している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。